

うらまちじんせい
裏町人生

1. ^{おとこ}（男）^{くら}暗い^{うきよ}浮世の ^{うらまち}この裏町を

滲進來的陽光

^{のぞ}覗く^{つめ}冷たい ^{こぼ}零れ^び陽よ

好像 冷漠地窺視著 這黑暗世界的後巷(倒裝句)

なまじ かけるな ^{うすなさ}薄情け

不需要那虛情假意的薄情

^{ゆめ}夢も ^{わび}侘しい ^{よる}夜の^{はな}花

連做夢都覺得空虛寂寞的 夜之花

2. ^{おんな}（女）^{だれ}誰に ^ふ踏まれて ^さ咲こうと ^ち散ろ(う)と

無論被誰踐踏,照常綻放與凋落

^い要らぬ ^{せわ}お世話さ ^{ほう}放つときな

我不需要照料,不要理我吧

^{わた}渡る^{せけん}世間を ^{したう}舌打ちで

煩厭在這世間度日

^す拗ねた ^{わたし}妾が ^{なぜ}何故 ^{わる}悪い

鬧別扭的我,到底有何過錯

3. (男) ^{やけ}自棄に ^ふ吹かした ^{たばこ}煙草の ^{けむり}煙

自暴自棄的抽著菸, 煙霧瀰漫著

^{こころうつ}心 ^{おに}虚ろな ^{あざみ}鬼 薊

就像那心中如此空虛的薊草花

^ひままよ 火の ^{さけ}酒 ^{あお}呷ろうと

不管是多麼烈的酒, 就這樣的大口大口地吞下

^{よる}夜の ^{はな}花 ^{くる}なら ^ざ狂い咲き

而夜之花, 即使季節不對, 依然胡亂地綻放著

4. (女) ^{きり}霧の ^{ふか}深さに ^{かく}隠れて ^な泣いた

隱身於濃霧中, 暗自哭泣

^{ゆめ}夢 ^{ひと}が一つの ^{おも}思い出 ^でさ

夢中是唯一可以回憶的地方

^な泣いて ^{なみだ}泪 ^かが枯れたなら

倘若哭到淚水乾枯

^{あした}明日の ^{ひか}光りを ^{むね}胸に ^だ抱く

那就將明日的光輝, 擁抱在懷裡吧